



県内でヒークを迎えているシラスウナギ漁。集魚灯などの光が幻想的に輝く。27日午前4時10分、高崎市・大湫川河口（1分間露光）

たええギ漁
盛期迎え
シラスウナギ

23.1.28 白
不夜城のにぎわい

本県のシラスウナギ漁は、季節変動の激しく、今季の採捕量も同水準となるも、みよ（50日現在）で倍増。藤代組会長は「ここ数日でやっと捕れた。獲量（ごまか）業者のために、少しでも多くを確保したい」と話していた。

県内のシラスウナギの漁は、漁船がヒークを待ち受ける。高崎市の大湫川河口には、自ら照明を点灯し、小型船約40隻が出漁。シラスウナギを集めるための集魚灯が山を照らす幻想的な風景が広がった。県水産試験場によると、今季の漁期は昨年11月20日から今年3月1日まで、これから約2週間という。シラスウナギは新月の前後の前後を中心に、まもなく大湫川河口で漁を始める。新月の4日後にあたる1月23日は、大湫川河口で漁を行う高崎県水産試験場（藤代組組長）所属の約80隻が出漁した。小さな船を使い、光を集めてきた体厚も、前後のシラスウナギを1匹ずつ1隻ずつ上げている。